

研究計画概要

助成年度・種別	2021年度 一般研究助成
研究代表者	大山 智也
所属	筑波大学
研究テーマ	犯罪の「危害」指標とマップの作成に関する研究
研究計画概要	<p>犯罪のリスク水準は、長らく刑法犯の認知件数、すなわち犯罪の発生頻度によって把握されてきた。しかし頻度による議論では、被害額の少ない窃盗のような高頻度かつ軽微な犯罪が重視されがちであり、性犯罪や詐欺など、低頻度ながらも市民の関心の高い犯罪リスクを捉えにくい。一方で、個別の罪種に着目した犯罪発生マップでは、地域のリスクを総合的に把握しにくいという課題がある。</p> <p>本研究は、わが国において、犯罪種別ごとに量刑などの基準をもとに重みを設定し、犯罪リスクをとらえ直す犯罪危害(Crime Harm)指標を設計することを目的とする。既存の危害指標を参考としつつ、量刑だけでは捉えられない、市民の犯罪に直面した際の不安や、身体的・心理的・経済的損害の程度などを反映しつつ、個人のほか、地域社会、全体社会などの犯罪予防の主体ごとに指標を作成する。さらに、実際の地域に対してこの指標を適用した危害マップを作成した上で、住民・行政とのワークショップを実施し、地域における犯罪リスク・危害への対策について協議しつつ、危害指標へのフィードバックを得る。</p>
選考委員からのコメント	<p>リスクは、発現頻度とそのダメージの重みの加重和として捉えられるが、それを応用して犯罪認知件数(頻度)マップを危害(頻度×重み)マップに書き換えてみるという萌芽的で挑戦的な研究である。課題は、日本の特性に応じた罪種別の犯罪危害指数をいかに科学的に設定するか。関係する実務家や一般市民の意見を踏まえ、指標の数値がもたらす影響も十分に検討しつつ、犯罪予防対策の検討につながる研究成果を期待する。</p>